

「アメリカにおける政治的基盤構造」研究会

米国に関する研究会は日本国際問題研究所に最も古くから存在する研究会の一つである。例えば、古くは昭和 38 年 4 月、故・斉藤眞先生などが中心となり、米国の対外政策決定と議会との関係を研究する研究会が設けられ、翌年 4 月まで研究プロジェクトを継続した。同研究会の成果は『アメリカの対外政策決定と議会』として昭和 40 年に当研究所から刊行されている。

また、昭和 58 年 5 月には細谷千博先生を中心に有賀貞先生、五十嵐武士先生などのメンバーからなるレーガン外交研究会が当研究所内に発足し、討議と意見交換を経て『アメリカ外交』（昭和 61 年、日本国際問題研究所）を公刊している。

当研究所は以上のようなアメリカ政治研究の伝統を受け継ぐ形で、平成 20 年度から 2 年間にわたるアメリカの政治的基盤構造に関する研究プロジェクトを進めている。2 年目にあたる 2009 年 6 月 29 日、弊研究所にて 2009 年度の米国研究会・第一回会合が催された。以下において、本プロジェクトの概要と意義について紹介する。

【研究概要】

本プロジェクトはアメリカ政治を構造的に支える政治的基盤構造を研究するものである。この政治的基盤構造はしばしば「政治的インフラストラクチャー」とも呼ばれる。それは政党やロビー団体に代表されるような直接政治プロセスに参入する政治的アクターとは異なり、権力ゲームの中核周辺で様々な手段を用いて政治的潮流に影響を及ぼそうとする諸集団・団体のことをさす。

政治的インフラの研究は、短期的なスコープの情勢分析からは零れがちであるが、例えば 1970 年代以降の保守主義運動の台頭の力学を解き明かしていくためには、政治的インフラの果たした役割を抜きにしては理解できない。なぜなら、1970 年代以降の保守主義運動はシンクタンク、財団、メディア監視団体、教育監視団体、人材育成機関などを縦横無尽に駆使し、それを的確に組み合わせることで目覚ましい台頭を遂げたからである。いま民主党の側においても、共和党のモデルを参考にしながら、同じような試みが展開されている。

このように、今後のアメリカ政治の趨勢を見極めるためには、政治的インフラに関する考究を深めていくことが重要であることはいままでもない。しかしながら、日本において、管見の限りでは、この分野に関する本格的な分析はなく、アメリカにおいてもこのような研究は希少である。

【研究目標とこれまでの成果】

本プロジェクトは、政治的インフラが構築されるメカニズム、そしてそれが実際にどのように長期的な構造変動の下地を形成していくのかについての研究を行い、今後のアメリカ政治を観察していく際の新しい視座を模索することを目標とする。

本プロジェクトは、1年目の成果として既に中間報告書をまとめている。最終的には中間報告書をもとに研究を更に発展させ、その成果を日本国際問題研究所の現代アメリカシリーズ第9巻として出版することを目指すものである。

なお、本プロジェクトはサントリー文化財団からの研究助成を得ていることを付言しておきたい。

【研究会メンバー】

以上のとおり、本プロジェクトでは、個別の政治団体やシンクタンクに焦点をあてた従来型の研究を行うのではなく、そうした団体や集団が他の団体とも連動しつつ、どのようにしてより大きな政治的力学を形成していくのか、そのメカニズムについて理論的・実証的分析を行う。本プロジェクトにおいては、それぞれの分野において一線の研究を行ってきた研究者を集め、これまで「点」として行われて来た研究を「線」へ繋ぎ、さらには研究成果を「面」として公表していくことを主眼とする。そのために、問題意識を共有した諸分野の専門家の協力をもとめることが不可欠だといえる。本研究プロジェクトのメンバーは下記のとおりである。

主査：

久保 文明 東京大学教授／当研究所客員研究員

委員：

足立 正彦 株式会社住友商事総合研究所シニアアナリスト

植木 (川勝) 千可子 早稲田大学教授

岡山 裕 慶應義塾大学准教授

高畑 昭男 産経新聞社編集委員兼論説委員

辰巳 由紀 ヘンリー・スティムソン・センター研究員

彦谷 貴子 防衛大学校准教授

前嶋 和弘 文教大学准教授

松岡 泰 熊本県立大学教授

宮田 智之 在米日本大使館専門調査員

渡部 恒雄 東京財団上級研究員

委員兼幹事：

中山 俊宏 津田塾大学助教授／当研究所客員研究員

西川 賢 当研究所研究員